# 現状報告 4：東北大学 AO 入試における主体性評価の現状と課題

東北大学高度教養教育・学生支援機構准教授
宮本　友弘　氏

［講師紹介］

**樫田豪利特任教授（司会）：**

最後の現状報告になります. 現状報告 4『東北大学 AO 入試における主体性評価の現状と課題』, 東北大学高度教養教育・学生支援機構准教授宮本友弘先生，よろしくお願いいたします.

**宮本友弘准教授：**

東北大学高度教養教育・学生支援機構の宮本と申します．今日は東北大学の AO 入試において，主体性評価がどういった具合に行われてきたか．あるいはどんな課題があるかについて報告したいと思います．皆さんのご興味はもしかするとこれからの一般入試での主体性の評価にあるかとも思うんですが，私としましてはまず，東北大学の AO 入試でどういった主体性評価がなされてきたかということを，改めて見直すことによって，一般入試における主体性評価の何かヒントが得られるのではないかと考えまして，こういったテーマでお話させていただくことにしました．どうぞよろしくお願いします.

まず本日の内容なんですが（スライド 2），大きく 4 つのことについてお話させていただきます．まず私は専門が心理学でして，先ほど西郡先生の発表でも少し触れたかと思うんですが，心理学の観点から主体性ってどういうことなのかについて，少し説明させていただきます．次に，本学の AO 入試における主体性評価の現状，続きましてその課題，最後にまとめということでお話をさせていただきます.

**心理学からみた主体性とは**

それでは始めます．まず主体性についてですが，これは心理学的に考えますと，何が重要になってくるかと言いますと，個人の行為とか行動の原因っていうのが，どこにあるかっていうことなんですね．すなわちこれ（スライド 3）を人と見てください．この人が何か行為をする時, その原因はどこにあるのか, 起点はどこにあるのかを考えます．その際, 従来は原因は人の外部にあって，外部からの働きかけで，ある行為，行動が起きるという考え方がありました．具体的に言いますと，それは学習という側面におきましては，条件づけというようなことで知られています．さらに，学習に関係するところとしましては，意欲では，外発的動機づけとなります．これらのことについては，本日ご来場いただいている先生方も，学生時代に教職科目で勉強なされたかと思います．しかしながら，こういった外部の原因だけじゃ，人間の行為とか行動を説明できない．そういうことがありまして，やはり人間の中に行動の源泉となる原因があるんじゃないかと．そういう見立てが重要というような考え方になっていきました．学習面で言いますと条件づけといった外部の働きかけよりも, 認知の働きが重要であると.

あるいは，意欲でしたら内発的動機づけと言われるものが大事だというようなことになりました．大きく人間観として，外に原因を求めていく場合は他律的というような言い方をします．それに対して，中に原因を求めていく場合を自律的と言います．心理学におきましては，この自律的であるということが，イコール主体ってことなんですね．すなわち，行動の起点となるのが個人の中にあるよっていうような考え方です．

じゃあ，そもそもその個人の中の大きな起点って何かと言いますと，意志なんですね（スライド 4）．それはどういったものかと言うと，心の中心にある自我の働きによって，その意志が生じる．もっと言えば，様々な認知や，あるいは内発的動機づけ，そういったものと統合するものが自我という考え方なんですね．この自我の働きのうち，主体性と関連することを言った人が誰かと言うと，エリクソンという学者さんなんです．フロイトの弟子なんですけれども，彼はアイデンティティっていう概念を出しました．これは自我同一性って言うんですけれども，どういうことかと言いますと，まず，これは青年期の発達課題で，抽象的に申し上げますと，児童期までの自己の見直しと再構築ということなんです．ちなみに児童期は勤勉性が発達課題です．自我同一性を簡単に言いますと，自分は○○だという感覚です．ここでいう自分が自我，○○だというのは，○○と同一だという意味で，自我同一性となります．自分は何であるかっていう感覚にはふたつの側面があります．ひとつは今現在の自分のまとまり感です．多様な自分がいるんですが，それらをまとめて，自分はこうだという自己定義なんです．もうひとつが，実は進路とかに関係してくるんですが，過去と現在と未来の自分の一貫性なんですね．自分が時間的にどうつながっているかということで，自我同一性の側面として非常に重要になってきます．この自我同一性が確立されますと，自己基準による決定ができるようになります．つまり，自分は○○だから，△△をするんだというようなことになります．例えば僕は医者を目指すから，じゃあ東北大の医学部を目指すんだというように，そういう自己基準による決定が生まれるという仕組みです．

さらに最近は，アイデンティティっていうのは個人の単独の作用ではなくて，他者とのやり取りによって自分の意味が明確になると言われています（スライド 5）．例えば，お母さんが最初から母親アイデンティティがあって，子どもを産むのではなく，産んだ後に，子どもとのやり取りの中で母親としての感覚を強めていく，そういうような考え方なんですね．従いまして，最近高大接続改革の文脈で言われている学力の三要素の中での，この主体性，正式には主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度の中に込められている協働っていうのは，こういった相互作用の要素も含み込んでいる概念なんだなというふうに，私は解釈しております．さて，ともあれこういったアイデンティティを持つとどうなるかっていうと，自己基準ができますので，初めての場面や未知の場面でも慌てなかったり，うろたえたりしません．さらにここが重要なんですが，今と将来とのつながりっていうのを考えるので，キャリア展望が非常に明確になっていくということが特徴として言えます．これが今，心理学的に見た時のひとつの主体性の考え方です．

**東北大学 AO 入試における主体性評価の現状**

次に，以上の考え方を踏まえながら，東北大の AO 入試についての現状について見たいと思います．まず，東北大学が求める学生像とは何かと言うと（スライド 6），アドミッションポリシーに掲げられているんですけれども，ひとつはやはり，研究大学として研究者をぜひ目指してほしい，研究者を目指すんだというのが第一義的にあります．次に，職業人としても，少し一段高いレベルの職業人を

目指してくださいと. さらに, 高水準の学力. この 3 点が，特に研究者を目指すということと，高水準の学力ということが，アドミッションポリシーの中核を成しています．そもそも研究者を目指すんだったら，主体性ない人っていない，主体性のない研究者はいないということです．さらに，研究大学としての入学後の学習には，学力は大前提となりますので，一般入試と AO 入試で求める学生像の基本は，ほぼ同じということなんですね．基本は同じということです. この点におきまして, 主体性を含み込んだ学力の概念が，すでに内包されているというのが東北大学のアドミッションポリシーです.

続きまして，じゃあそう言った中で一般入試と AO 入試は何が違うのか，AO 入試のコンセプトは何かと言うと，そのひとつが第一志望っていうことなんですね（スライド 7）. AO 入試は，第一志望者のための特別な入試機会であるということなんです．そのため，AO 入試では，高校生が思慮すべきキャリア展望を求めていくことになります．そうしますと先ほども申し上げたアイデンティティのひとつの側面と非常に合致することでもあるんですね．2 番目は学力重視．これは，一般入試と同等以上の水準の学力を求めております．具体的には高校で身に付けるべき学力を要求しているということになります.

AO 入試において，そういった側面を評価することもアドミッションポリシーに掲げています（スライド 8）. 学力と，さらにプラスアルファの部分があるんですが，学力の部分で基礎知識, あるいは思考力, 表現力を問い，さらにプラスアルファの部分では，主体的学習意欲等々を評価しようとしています．このように，もうすでに今の段階で学力の三要素をアドミッションポリシーの中に含み込んでおります．そのために，具体的にどういう道具立てをしているかと言いますと，まずは，AOⅡ期は 11 月にやるのですが，学力に関しては独自の筆記試験で，プラスアルファの部分は出願書類や面接で見ます．2 月に行われる AOⅢ期では，学力の部分はセンター試験で，プラスアルファの部分は AOⅡ期と同様の方法で見ていくというのが基本的な道具立てとなっております．具体的に出願書類はどういったものがあるかと言いますと, 調査書, 志願理由書，活動報告書，志願者評価書というものからなっております.

実際に平成 30 年度入試は，どのように行われたか言いますと，まず, AOⅡ期については（スライド 9），一次選考と二次選考があるんですが, 文学部, 医学部医学科, 保健学科, 歯学部では必ず一次選考を行います. その際, 歯学部以外は出願書類も評価します．表の色が付いている点数は一次の結果を二次でも利用するという意味です．一次選考で筆記試験を課す学部ではすべて，その結果を二次選考で利用しています．一方，理学部，工学部，農学部の一次選考にある丸が何かと言うと，ある倍率を超えたら，一次選考を実施するのですが，いずれも出願書類で判断するという意味です．二次選考では，全学部で面接試験を課します．また，学部のアドミッションポリシーによって出願書類の使い方が違うんですけれども，単独でこのように配点するパターンと，面接点に組み込んでいくパターンがあります.

AOⅢ期については（スライド 10），倍率によっては一次選考を行いますが，その際は，センター試験の結果を利用します．一部の学部では出願書類も活用しています．二次選考では, AOⅡ期と同様に全学部で面接を実施します．また，出願書類も，面接点に含めるパターンと単独で配点するパターンがあります.

さて，学力重視ということは，我々は学生にどういう学習行動を求めているかというと（スライド 11），一般入試との連動した受験行動を期待しているんですね．すなわち AO 入試の準備が，一般入試にも有効に機能するということです. 11 月に AOⅡ期があります. その後にセンター試験．それで AOⅢ期，前

期日程，後期日程と続くのですが，AO を受験される方には，前期日程，あるいは後期日程までも視野に入れた計画的な勉強をして臨んでいただきたい，それだけ強い意志を持って，東北大に向かっていただきたいということを，我々は求めております．

こういった一貫した行動のひとつの指標として(スライド 12)，AO 入試で不合格で，そのまま一貫して東北大を志望し，一般入試を受けていただいて，合格した人の人数があります．最近は増えていまして，200 人を超えるというような状況で動いています．

さらにこうして選抜した方々の入学後の学習行動として(スライド 13)，2009 年，2011 年，2013 年の 2 年ごとにそれぞれ入学年度別に 4 年間の GPA を見ました．共通科目と専門科目に分けています．共通科目とは，1，2 年生で学ぶような科目です．こうして見ていただくと分かるように，前期日程で入ってきた方に比べて，AO で入ってきた方の成績は，共通科目，専門科目に関わらず高い．これは統計的にも有意になっております．このように，AO で入ってきた方は，入学後も非常に一生懸命勉強をしているというような状況が示唆されております．

現状まとめますと（スライド 14)，我々は AO 入試の中で主体性をどう評価してきたかと申しますと，まず，コンセプトにおいて第一志望，学力重視を強調していることです．先ほど述べた心理学的なアイデンティティ論から見ると，第一志望ということはアイデンティティを問うていることであり，まさに，主体性を見ているということなんですね．また，学力重視についても，主体的な学習行動が反映されていないと，一定水準以上の学力って得られないんですね．実際，学習面での意欲と，学力の相関関係は非常に高いことが知られています．道具立てとしましては，先ほどご覧になったように筆記試験，センター試験，出願書類，面接から多面的，総合的に評価しております．最後に成果につきましては，先ほど GPA を見たように，入学後の学習にも主体的に取り組んでいるということが，示唆されている状況です．

**主体性評価の課題**

課題なんですけれども（スライド 15)，ひとつは，出願書類です．やはり出願書類の評価っていうのは難しいですね．そもそも主体性がどの程度反映されているのかと．西郡先生のご発表にもございましたように，成果を見ていくのか，プロセスを見ていくのかというのは，非常に大きな問題です．そのあたりについては，アドミッションポリシーに照らして，今のところそれぞれの学部で判断していただいております．さらに，評定者側の信頼性ですね．どれぐらい，評定がぶれずに一致していくのかということなんですが，この点につきましては，私どもでも各学部さんの依頼を受けて統計的に分析したりして，色々とチェックしております．詳しいことは言えないんですが，一生懸命そこのことに対しては，腐心してきたという歴史がございます．また，ポートフォリオはうまくいくのか．最近は，e ポートフォリオが広まりつつあります．私は，5 年前，京都のポートフォリオ評価を非常に先導されている先生がご指導している高校を訪問したところ，同校の担当教員の方から，ポートフォリオ評価がうまくいっている高校はないんだと聞きました．非常に驚きまして，どうしてですかと聞いたんです．そうしましたら，まず高校生が資料を蓄積できないと．途中でなくしちゃったりするので，蓄積ができないとおっしゃっていました．また，もう一つ理由として，教員の共通理解がないと難しいということで，ある特定の先生は一生懸命やっているけれども，ある先生がやっていないといった状況だと駄目だと．この共通理解を得るのもすごい大変なんだと．だからなかなか，成功事例は生まれないということでした．じゃあそれを電子化すれば解決するのかと．ある一定の，作業上の省力化

は行われるかもしれませんけれども，根本的な解決になるかどうかっていうのは，ちょっとゆっくり見ていった方がいいのかなと思います．さらに，これはポートフォリオの件とも関係するんですが，私どもの入試では，できるだけ高校側の負担をかけないようにと考えてきました．出願書類におきましても，あまり書く量はないかと思います．そういった負担が，今後出願書類の扱いが大きく変わってきた時にどれぐらい変わっていくのか．それが非常に気になっているところです．

2 番目の課題なんですが（スライド 16），波及効果です．波及効果というとプラスをイメージしちゃうと思うんですけれども，実は学習行動を方向付けづける影響には，ネガティブな側面もあるんですね．どういうことかと言いますと，評価に行動を合わせすぎてしまい，行動が形骸化してしまうということなんです．簡単に言ってしまうと，これは多くの先生方が，今までの発表でも言われていたんですが,「主体的である」と評価されるような行動をしてしまうことです．そういったことになりかねないんですね．それは非常に，本来の主体性の評価の妥当性が低下していくお話になっていきます．もうひとつは，お膳立てしすぎちゃうことの弊害なんですね．これは，速水先生という，仮想的有能感という言葉で有名な先生なんですが，その方が言っていた疑似内発的動機づけが危惧されます．教師が一生懸命お膳立てをする，色んな教材を準備する，色んな授業準備をすると，それの時は非常に意欲的にやるんだけれども，教師がその努力を辞めたとたん，パタッとやらなくなってしまうといった状態を言っています．そういう状態は一見主体的なんですけれども，実はさっき言った自律か，他律かって考えた場合は，他律的なんですね．決して自律的にはなっていないと．そういう波及効果が非常に懸念されるところでございます．

まとめなんですが（スライド 17），やはりこれまでのご発表もありましたし，私も改めて主体性ということを考えてみましたところ，その定義，測定，評価は，そもそも容易ではありません．しかし，そうであっても，重要なことは，結果に対して不合格者が納得できるかです．そういうような入試をやっていかなくてはいけないわけなんですよね．この書類のどこが駄目なのか，一体，何が評価されているんだ，といったあたりをしっかり分かるようにすることが重要かと思います．この点については，主体性の評価が一般入試にも導入された場合，ますます重要になっていくかと思います．これは多少手前味噌なところもありますけれども，東北大学が求める学生像．すなわち研究者を目指している研究者志向のある方には，もう主体性の要素は含まれています．ですので，この意味で主体性は，これまでの AO 入試で評価されていましたし，各学部の先生方と入試の時にいろいろお話すると，詳しいことは言えませんが，皆さんすごくこの点を大事にされています．これは事実です．最後に今後，東北大学としましては AO 入試の定員を全募集定員の 30%まで拡大する方針でございます．研究大学として求めていく学生像，アドミッションポリシーの基本は変わりません．ですので，具体的な方法とか，そういったところを先生方は気になるかと思いますが，アドミッションポリシーに込められた我々の意図やメッセージをよく読み取っていただければと思います．少しオーバーしました．どうもありがとうございました．

（拍手）

**樫田豪利特任教授（司会）**：

宮本先生，ありがとうございました．これまでのご講演に関するご質問等につきましては，お手元の質問票をご利用ください．

これから，次の討議に向けて舞台の設定等を行いますので，15 時 50 分まで休憩とさせていただきます．その間に，係の者が会場内

を回って質問票を回収いたしますので，質問票は, 係の者にお渡しください. ご協力の方, よろしくお願いいたします．それではこれから 50 分まで休憩時間とさせていただきます.

資料

第28回東北大学高等教育フォーラム　2018.5.21

# 東北大学AO入試における主体性評価の現状と課題

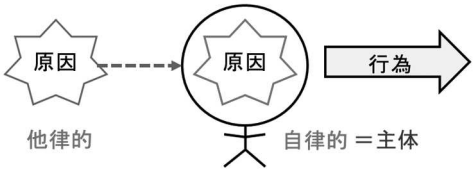
東北大学高度教養教育・学生支援機構
高等教育開発部門入試開発室
准教授　宮本友弘

## 本日の内容

1. （心理学からみた）主体性とは？
2. （AO入試における主体性評価の）現状
3. （AO入試における主体性評価の）課題
4. まとめ

## 主体性とは？①

■個人の行為の原因




| | | |
|---|---|---|
| 学習 | 条件づけ | 認　知 |
| 意欲 | 外発的動機づけ | 内発的動機づけ |

## 主体性とは？②

■個人の「意志」に基づく行為　自我の働き

アイデンティティ（自我同一性）　by　エリクソン

- 青年期の発達課題
  児童期までの自己の見直し・再構築
  児童期の「勤勉性」が土台にある
- 「自分（自我）は〇〇だ（〇〇と同一だ）」という感覚
  現在の自分のまとまり
  過去，現在，未来のつながり
- 自己基準による決定
  「自分は〇〇だ」，だから「△△をするんだ！」

## 主体性とは？③

■他者との相互作用の重要性

- アイデンティティの確立は個人の単独作用ではない
  他者とのやりとり（相互作用）によって
  自分の意味（役割）が明確になる

⇒「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」

⇒　初めての場面や未知の問題にも慌てない，うろたえない
キャリア展望

## 現　状①

■東北大学が求める学生像

- 21世紀の人類社会の課題に対し研究者 として真剣に取り組み優れた貢献をしようとする志
- 豊かな学識とリーダーシップを備える職業人 として社会の発展に優れた貢献をしようとする志
- 本学学士課程を受けるにふさわしい高水準の学力

⇒　そもそも，「主体性」の無い研究者はいない
「研究大学」として入学後の学修に学力は大前提
一般入試とAO入試で求める学生像の基本は同じ

## 現　状②

■東北大学のAO入試の特徴

①第1志望者のための特別な入試機会

⇒　高校生が思慮すべきキャリア展望を要求

②学力重視：一般入試と同等以上の水準の学力

⇒　高校で身に付けるべき学力を要求

## 現　状③

■AO入試における評価のための道具立て

学力（幅広い基礎知識や論理的思考力，表現力・コミュニケーション能力など）

＋

α（豊かな人間性，想像力・発想力，倫理性，主体的学習意欲と協調性，学問に対する好奇心など）

| | 学力 | α |
|---|---|---|
| AOⅡ期（11月） | 独自の筆記試験 | 出願書類<br>面接 |
| AOⅢ期（2月） | センター試験 | |

※出願書類

調査書　志願理由書　活動報告書　志願者評価書

## 現　状④

■AOⅡにおける評価の実際（H30年度入試）

| | 一次 | | 二次 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 筆記試験 | 出願書類 | 筆記試験 | 出願書類 | 面接試験 |
| 文学部 | 200 | 100 | 400 | 面接参考 | 200 |
| 理学部 | | ○ | 200 | 面接点含 | 100 |
| 医学部医学科 | 600 | 150 | 300 | | 150 |
| 医学部保健学科 | 400 | 150 | 200 | | 200 |
| 歯学部 | 400 | | 800 | 面接点含 | 200 |
| 工学部 | | ○ | 240 | 210 | 150 |
| 農学部 | | ○ | 400 | 300 | 300 |

## 現　状⑤

■AOⅢにおける評価の実際（H30年度入試）

| | 一次 | | 二次 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | センター | 出願 | センター | 筆記 | 出願 | 面接 |
| 教育学部 | ○ | | 550 | | 面接点含 | 100 |
| 法学部 | ○ | ○ | 900 | | 100 | 300 |
| 経済学部 | ○ | | 900 | | 面接点含 | 250 |
| 医学部医学科 | ○ | ○ | 1100 | 250 | 面接点含 | 250 |
| 医学部保健学科 | ○ | ○ | 900 | 200 | 面接点含 | 200 |
| 歯学部 | ○ | | 850 | | 面接点含 | 200 |
| 薬学部 | ○ | | 950 | | 面接点含 | 100 |
| 工学部 | ○ | ○ | 900 | 100 | 100 | 100 |
| 農学部 | ○ | | 900 | | 50 | 200 |

## 現　状⑥

■一般入試との連動

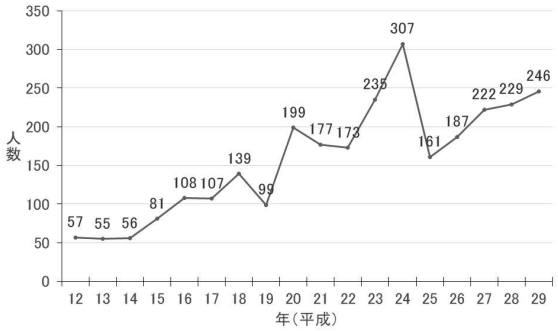
一般入試の準備がAO入試にも有効に機能

| 11月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|
| AOⅡ期 | センター試験 | AOⅢ期<br>前期日程 | 後期日程 |

一般入試までを視野に入れた計画的な勉強

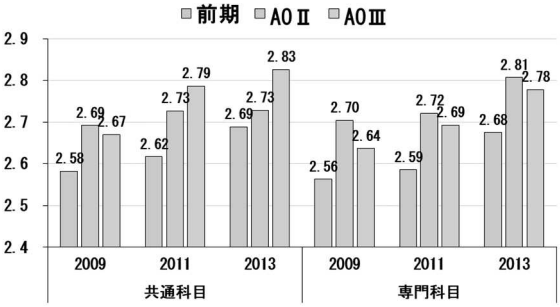
## 現　状⑦

■AO入試不合格、一般入試で合格した人数



## 現　状⑧

■卒業までの成績（入学年度別GPA）




資料提供：東北大学教育評価分析センター

## 課　題②

■波及効果

- 学習行動の方向づけのネガティブな側面
  評価に行動を合わせすぎてしまい行動が形骸化
  「主体的である」という行動をする
  ⇒　評価の妥当性が低下

- 「おぜん立て」しすぎることの弊害
  “疑似内発的動機づけ”（速水，1998）
  教師の「おぜん立て」によって意欲的にやる
  ⇒　一見「主体的」だが，実は「他律的」

## 現　状⑨

■「主体性」をどう評価してきたか？

- コンセプト（第1志望，学力重視）
  そもそもアイデンティティを問うている
  キャリア展望
  学力には，主体的な学習行動が反映

- 道具立て
  筆記試験，センター試験，出願書類，面接
  ⇒　多面的・総合的評価

- 成果
  入学後の学修にも主体的に取り組んでいる

## まとめ

- 「主体性」の定義，測定，評価はそもそも容易ではない

⇒　不合格者が納得できるか

- 東北大学が求める学生像（研究者志向）には「主体性」の要素は含まれている

⇒　この意味での「主体性」は，これまでのAO入試で評価されてきた

- AO入試募集人員の拡大方針は堅持

⇒　研究大学としてのアドミッションポリシーの基本は変わらない

## 課　題①

■出願書類の評価

- そもそも「主体性」が，どの程度反映されているのか
  成果か，プロセスか
  評定者の信頼性

- ポートフォリオはうまくいくのか
  高校ではポートフォリオ評価はうまくいかない（？）
  資料を蓄積できない，全教員の共通理解
  ⇒　電子化で解決する（？）

- 高校側の負担
  できるだけ高校側の負担をかけないようにしてきたが。

## ご清聴ありがとうございました

TOHOKU UNIVERSITY